



News Release

2014年3月6日

報道関係各位

日本ヒルズ・コルゲート株式会社

**引越し、就職、転職・・・生活に変化が多い春は、ペットのストレスに要注意
ペットオーナーの生活変化で、3頭に1頭以上の愛猫が体調に異常！
愛猫も人間と同じ！ストレスを感じやすいほど病気がちと判明**

日本ヒルズ・コルゲート株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役：ゴードン デュメシッチ）は、この度、猫のペットオーナーである20代以上の男女（536名）を対象に、愛猫のストレスと病気に関する意識調査を実施しました。

調査の結果、引越しや就職など、これからの春の時期に起りやすいペットオーナー側の生活変化で、愛猫がストレスを受けている可能性があることが明らかになりました。

【主な調査結果】

■ 自由気ままなようで、実は繊細。「愛猫がストレスを感じている」半数が回答

ペットオーナーに愛猫がストレスを感じやすいかを尋ねたところ、49.8%が「あてはまる」「ややあてはまる」と回答。また、「神経質」「人見知り」と回答した人も半数以上となりました。

■ ストレスの原因はペットオーナーにあった！？生活変化で3頭に1頭の愛猫が体調に異常

次に、愛猫がストレスを受ける原因について調査。引越し、就職など春によくあるペットオーナー側の生活変化が起った際に、愛猫の体調、行動に変化があったかを尋ねたところ、3頭に1頭もの愛猫に変化があったことが判明。「頻繁に鳴く」(43.0%)、「粗相をする」(51.3%)が多く、ペットオーナーの変化が愛猫にストレスを与え、体調や行動へも影響した可能性がうかがえる結果となりました。

■ ストレスフルな愛猫ほど病気に。ストレスが原因とされる「特発性膀胱炎」の可能性も1.5倍

さらに、愛猫のストレスと病気の関連についても調査。昨年1月からの病歴を尋ねたところ、ストレスを感じやすい愛猫の31.8%が何らかの病気に罹ったのに対し、感じにくい愛猫は19.7%のみという結果に。また、ストレスが原因とされる「特発性膀胱炎」の可能性のある症状が出た愛猫は1.5倍となりました。

■ 愛猫の体調に気を使っていると思っっているのはペットオーナーの思い違い！

「定期的な検診を受けている」は37%、愛猫に理想的な環境の家庭11%のみ

一方で、ペットオーナー側の意識はまだまだ低いよう。愛猫の健康のために「定期的に病院で検診を受けている」ペットオーナーは36.6%にとどまり、愛猫が過ごしやすい環境がすべて整っている家庭も11%のみという結果となりました。

<日本動物医療センター グループ最高執行責任者・獣医師 上野弘道先生>

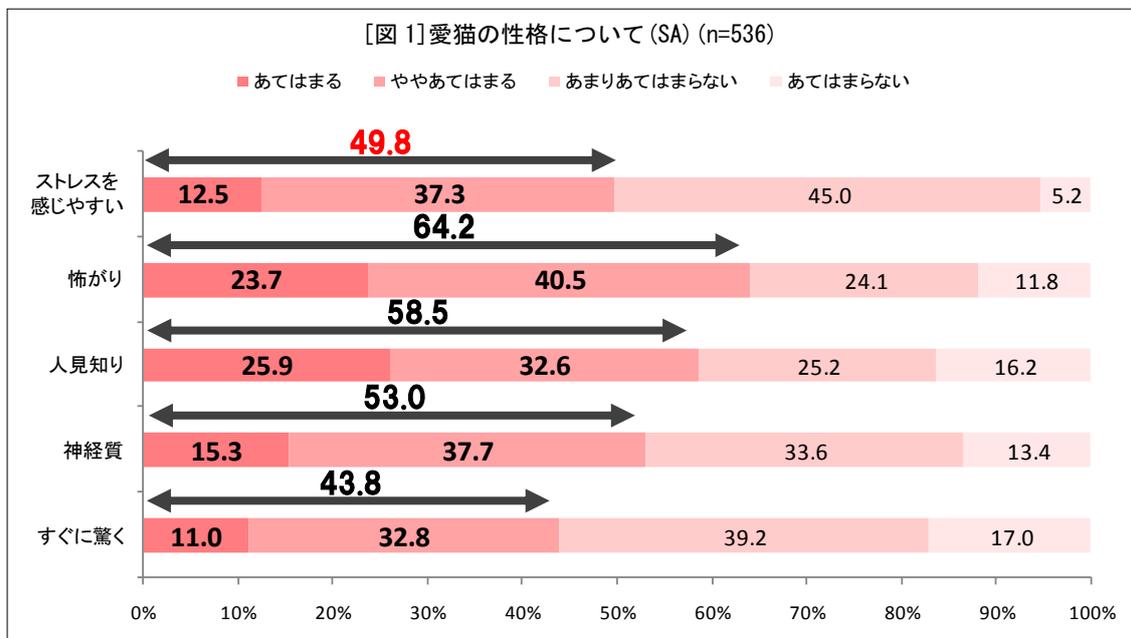
- ・少しでも猫の体調や行動に変化を感じたら、獣医師に気軽に相談してみてください。
- ・猫も人間と同じくストレスによって病気になります。特に、今回の調査でも結果の出たストレスが原因とされる「特発性膀胱炎」は繰り返す病気のため、再発予防も大切です。
- ・ペットオーナーの生活変化自体を解決するのは難しい場合も。大事な猫が病気を繰り返さないために、ペットフードなども上手く活用して、ケアしていきましょう。

一本資料に関するお問合せー
株式会社 インテグレート 担当：伊丹、杉浦
TEL：03-5771-9960 FAX：03-5771-5524

<調査結果>

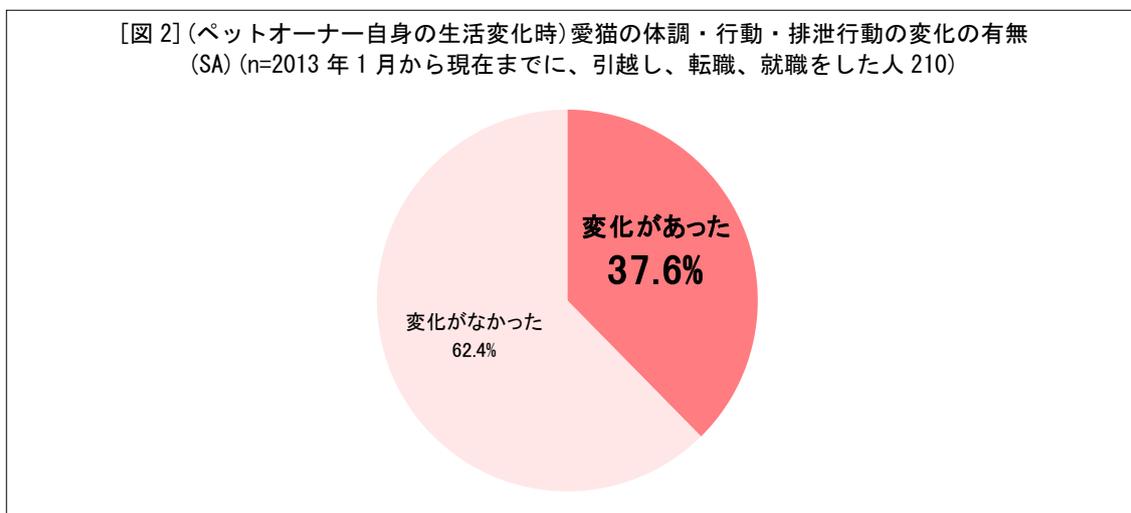
■自由気ままなようで、実は繊細。「愛猫がストレスを感じている」半数が回答

ペットオーナーに愛猫がストレスを感じやすいかを尋ねたところ、49.8%が「あてはまる」「ややあてはまる」と回答。また、「神経質」「人見知り」と回答した人も半数以上と、猫が実はストレスを感じやすいことがうかがえる結果となりました(図1)。



■ストレスの原因はペットオーナーにあった！？生活変化で3頭に1頭の愛猫が体調に異常

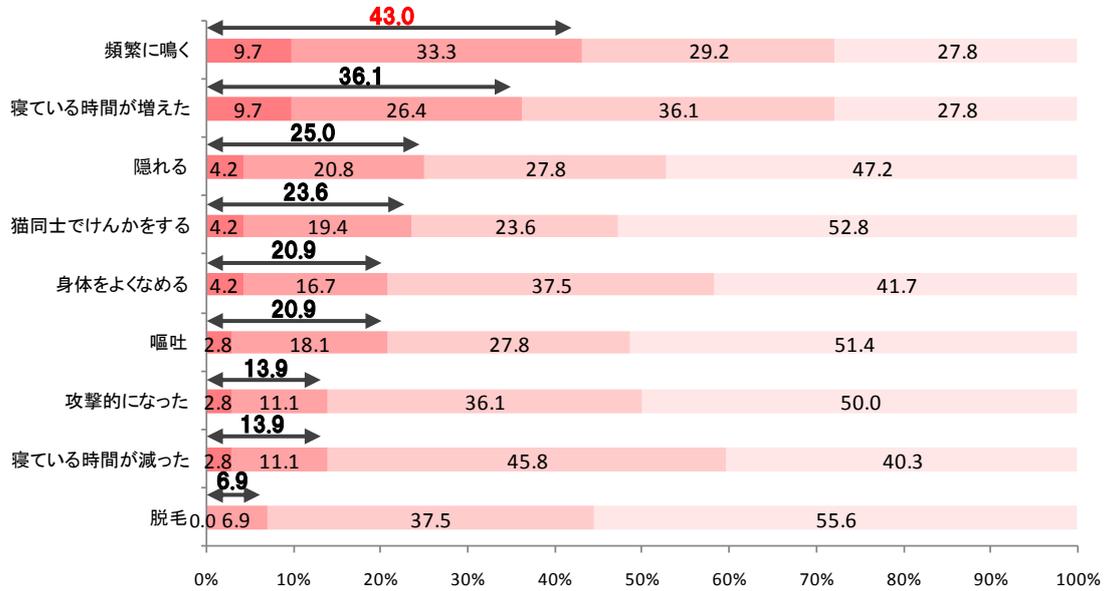
次に、愛猫がストレス受ける原因について調査。引越し、就職など春に起りやすいペットオーナー側の生活変化が起った際に、愛猫の体調、行動に変化があったかを尋ねたところ、3頭に1頭もの愛猫に変化があったことが判明(図2)。さらに、どのような変化があったかを尋ねたところ、体調や行動面では「頻繁に鳴く」(43.0%)が最も多く、排泄行動では「粗相をする」が51.3%で最も多くなりました(図3)。このような体調、行動、排泄行動の変化は猫がストレスを感じた際に起ることがある状態であり、ペットオーナーの生活の変化が愛猫にもストレスとなり、体調や行動へ影響した可能性がうかがえる結果となりました。



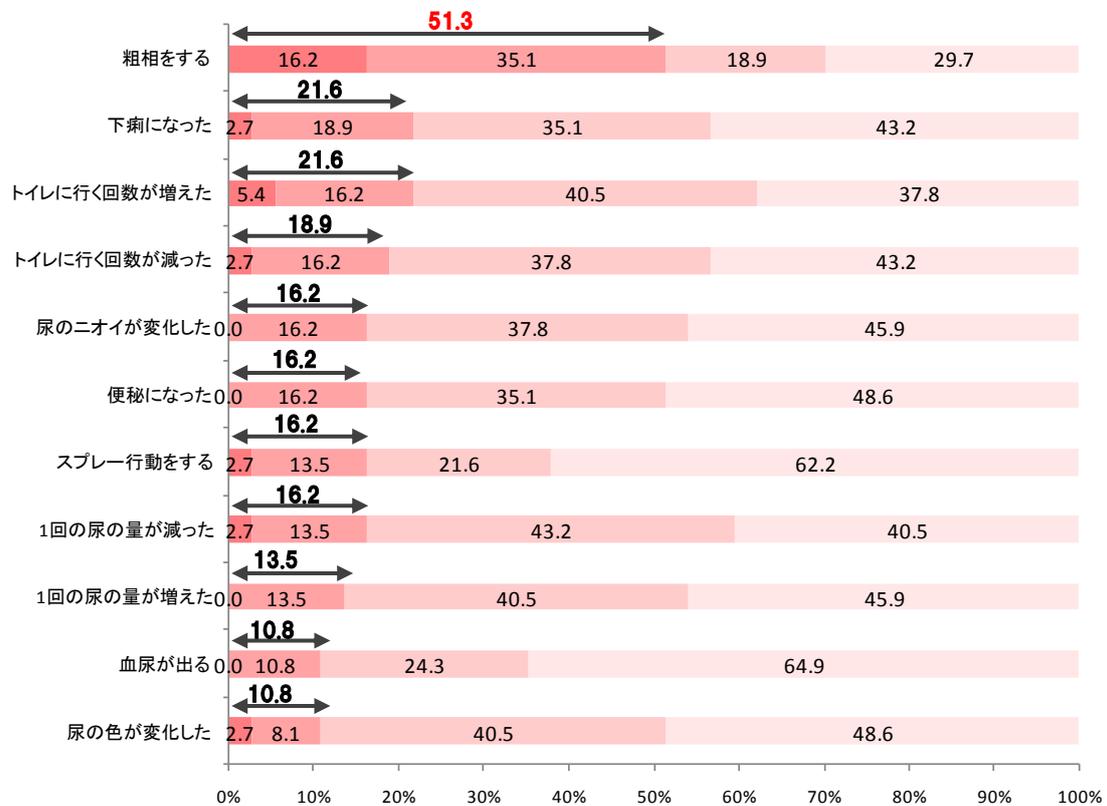
【図3】(ペットオーナー自身の生活変化時)愛猫にどのような変化があったか(SA)
(n=愛猫の行動・体調変化があった人 72、排泄行動の変化があった人 37)

■あてはまる ■ややあてはまる ■あまりあてはまらない ■あてはまらない

【体調の変化】

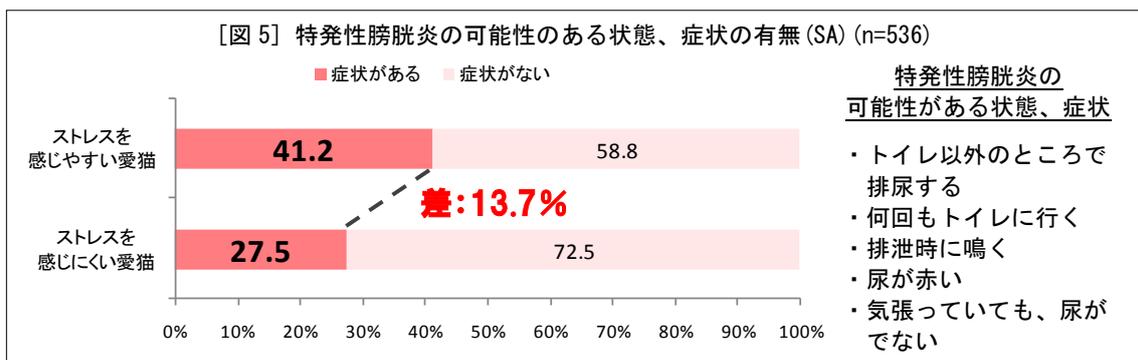
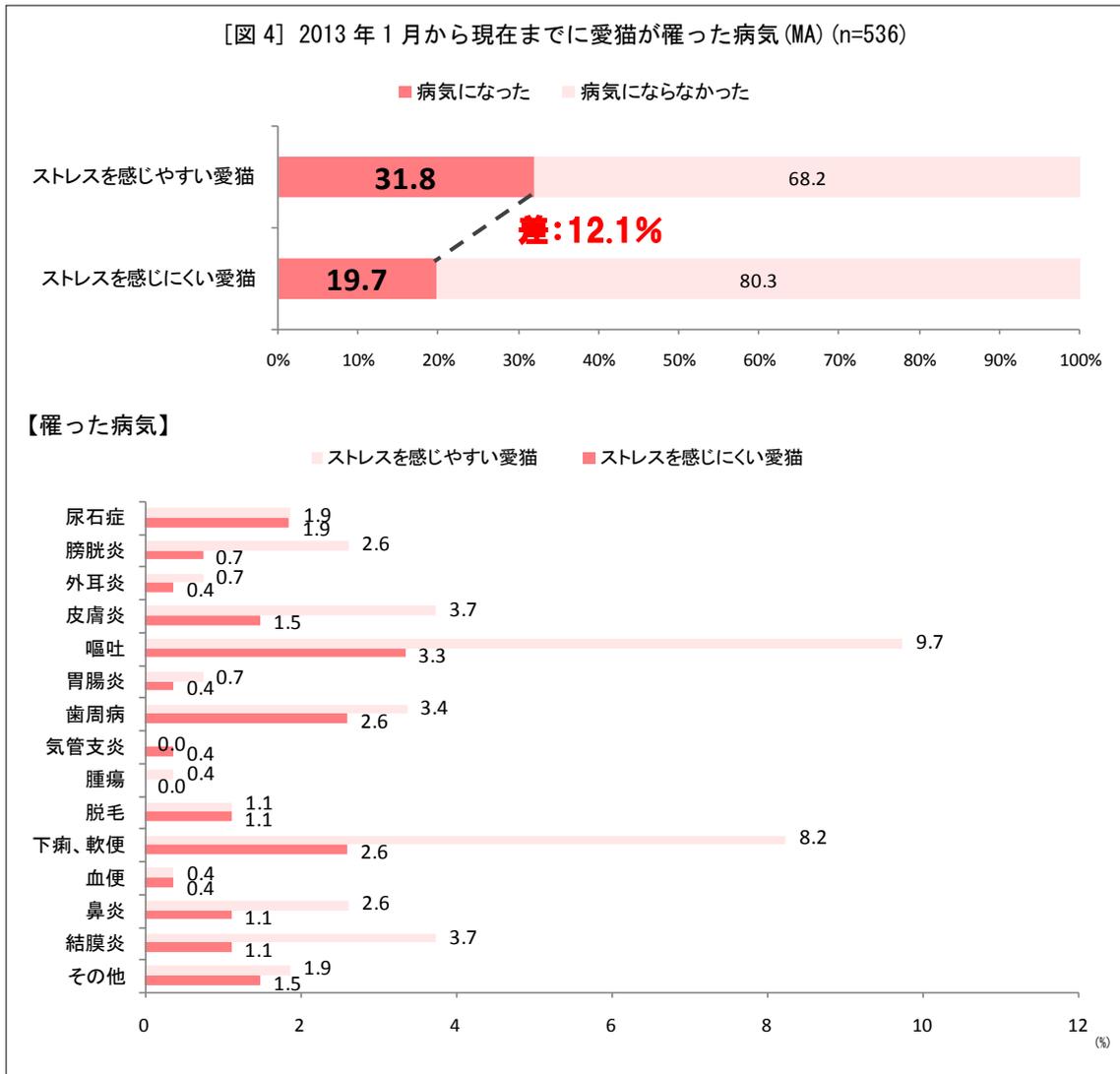


【排泄行動の変化】



■ストレスフルな愛猫ほど病気に。ストレスが原因とされる「特発性膀胱炎」の可能性も1.5倍

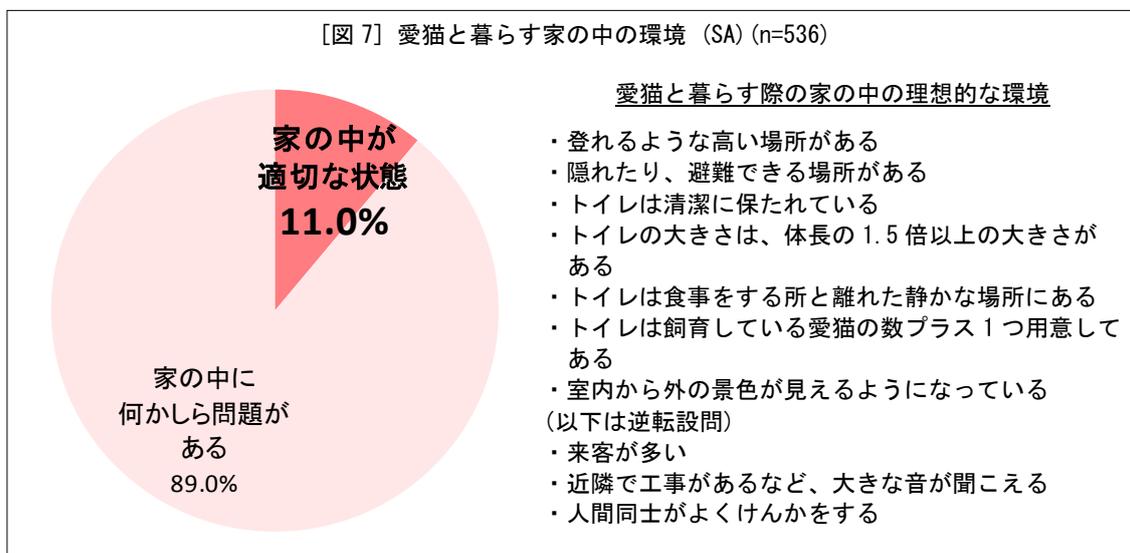
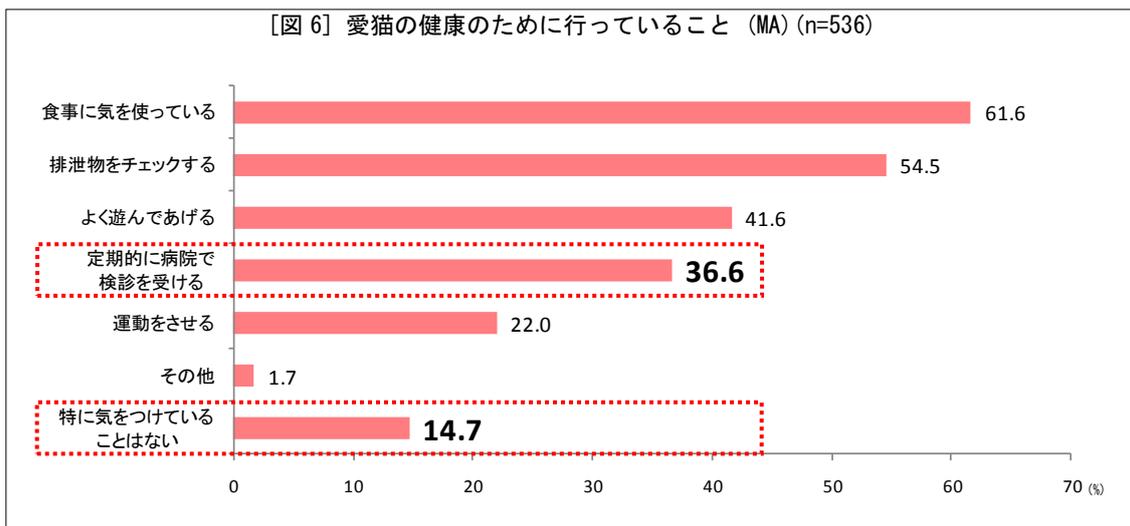
さらに、愛猫のストレスと病気の間連についても調査。ストレスを感じやすい猫と感じにくい猫を比較したところ、昨年の1月からの病歴について、ストレスを感じやすい愛猫の31.8%が何らかの病気に罹ったのに対し、感じにくい愛猫は19.7%のみという結果に(図4)。また、「トイレ以外のところで排泄する」「排泄時に鳴く」など、ストレスが原因とされる「特発性膀胱炎」の可能性のある症状の有無について尋ねたところ、ストレスを感じにくい愛猫に比べストレスを感じやすい愛猫は症状が1.5倍となりました(図5)。



■愛猫の体調に気を使っていると思っているのはペットオーナーの思い違い！

「定期的な検診を受けている」は37%、愛猫に理想的な環境の家庭は11%のみ

一方で、ペットオーナー側の意識はまだまだ低いよう。愛猫の健康のために「定期的に病院で検診を受けている」ペットオーナーは36.6%にとどまりました(図6)。また、「トイレが食事をする所と離れた静かな場所にある」「愛猫が登れるような高い場所が用意してある」など、愛猫が過ごしやすい環境がすべて整っている家庭も11%のみという結果となりました(図7)。



調査概要：

【調査方法】 アンケート調査（インターネット調査による）

【調査期間】 2014年2月15日～2月17日

【対象者】 2013年1月から今現在まで猫を飼っている20代以上の男女536名

※注： 回答結果はパーセント表示を行っており、小数点以下第2位を四捨五入して算出しています。

＜日本動物医療センター グループ最高執行責任者・獣医師 上野弘道先生＞

■猫のストレスの原因もその症状も様々。いつもと違う行動をしていたら、少し気をつけて。

猫はとても繊細な生き物で、その分ストレスも感じやすいといえます。ただ、そのストレスの原因や症状は猫によって様々。引越しをしてもすぐに慣れる猫もいれば、ずっと鳴き続ける猫もあります。行動の変化のすべてがストレスや病気に直結しているわけではありませんが、猫の行動に何か変化が生じたら少し気をつけてあげることが大切です。

■ストレスで病気になる可能性も。「特発性膀胱炎」に注意。

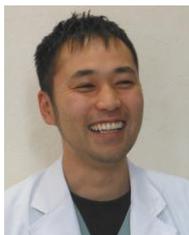
ストレスは、猫が特発性膀胱炎を患う主な原因の1つとして考えられます。今回の調査でも、ストレスを感じやすい猫ほど、特発性膀胱炎の可能性のある症状が見られました。

特発性膀胱炎は1年に何度も再発するケースが多々見受けられます。繰り返して膀胱炎にかかったために膀胱の内膜が弱くなっているせいもありますが、何回も繰り返すようなら、そもそものストレス要因が解決できていないということが考えられます。猫にとってのストレス要因を見極め、早急にストレス解消策を考えることが必要です。

■猫それぞれに合ったケア方法が大切。自分で判断せず、獣医師へ相談を。

ストレス原因やその症状が様々なように、必要なケアも様々。猫に変化を感じたら、ペットオーナーさんの自己診断ではなく、ぜひ獣医師に相談してほしいと思います。特に、引越しや転職、就職など、ペットオーナーさんの生活変化で猫の行動に何か問題が発生してしまっている場合、すぐに改善するのは難しいもの。

ストレスが長引くことで、猫が病気に罹ってしまったり、病気を繰り返さないためにも、療法食などペットフードも上手く活用して、ケアをしていくことが大切です。よりその子に合ったケア方法を見つけ、ペットオーナーさんも猫も幸せに長生きできるお手伝いができればと思います。



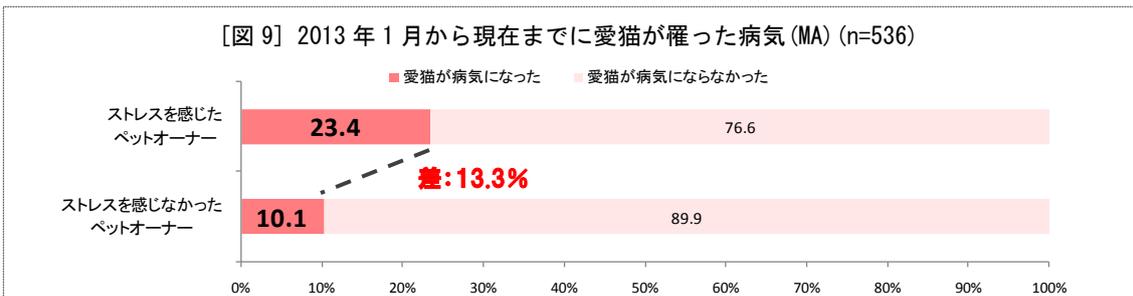
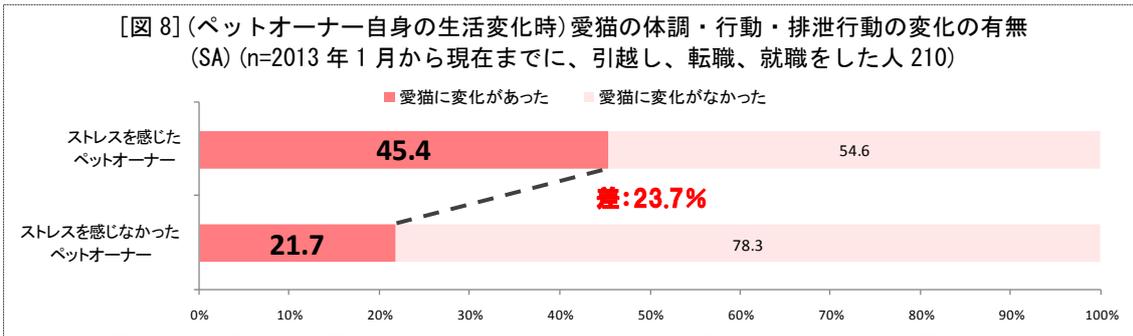
＜上野先生プロフィール＞

日本大学卒。日本動物医療センターに勤務しながら、日本大学附属動物病院外科にて研修の実績も持つ。日本動物医療センターの24時間看護体制を確立し、人の病院のように夜間でも入院動物を安心して任せてもらえる仕組みを動物病院でも提供している。

《コラム》

ペットオーナーとペットは以心伝心！？
 ストレスフルなペットオーナーの愛猫は体調・行動の異常が2倍に！

ペットオーナーとペットは似る、とよく言われますが、ストレスにも同じことが言えるよう。生活変化が起った際に、ペットオーナー自身がストレスを感じた人と感じなかった人で、愛猫の体調や行動の変化の有無を比較したところ、感じた人の愛猫のほうが変化している結果になりました(図8)。また、愛猫の病歴も比較したところ、ストレスを感じやすいペットオーナーの愛猫ほど、病気に罹っていたことが判明しました(図9)。



【罹った病気】

